

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービスぞうさん室住教室		公表日		令和8年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		教室スペースは比較的余裕がありゾーニングも行いやすい環境である。スタッフ同士が連携を取りバランスも適切である。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		利用定員に応じた職員配置数の規則を守り運営している。また、各日の児童層に応じた職員数を確保している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	事業所内に段差はなく学習室や相談室などの開放的な個室を設けることで視覚的に理解しやすく安全面に特化した外的環境づくりがなされている。室内はバリアフリー化されており全ての活動場所は視覚的に分かりやすい配慮がされている。	トイレの設備がバリアフリーになっていない
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		日々清掃を行っている。活動に合わせて「静」「動」に空間を使い分けて支援を行っている。清掃は毎日行っており週に一度の消毒等を実施している。	引き続き児童が快適に過ごすことができるような環境づくりを行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		事業所内に個別の部屋を設け児童らのクールダウン等の場として環境設定を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		児童の支援や業務内容等で日々PDCAサイクルをもとに行っている。職員全体で共通認識を図るべく目標設定と振り返りを定期的の実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		事業所評価を配布し、いただいたご意見を今後の支援や運営に活かしていけるようスタッフ間で話し合いを行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		日頃のミーティングに加え、事業所評価も行い、常に業務改善を意識した意見交換を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		運営指導で評価をいただいた。いただいて講評をもとに業務改善に向けて検討を重ねている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		研修案内やWEBでの研修などをスタッフ間で情報共有し、資質向上を図っている。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		職員全体が常に把握できている状態である。必要に応じて全て公表できる状態である。インスタグラムの公開もしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		適切に順序を追って計画書を作成している。保護者、利用児童、職員の意見をうまくまとめている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		計画作成にあたり職員の意見や見解を考慮し支援計画を策定。職員全体の共通理解を図っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画書の内容を情報共有し職員間で日々振り返りながら計画書に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		機能評価のFIMを参考としたアセスメント用紙を使用し児童の能力や状況を確認している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		それぞれの指標に沿った目標や支援内容を設定し、職員間で共有を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		担当職員が中心となり職員間で活動プログラムおよび内容の意見交換を行っている。活動内容に関しては職員間で意見、希望を出し合い立案している。外出先等は全スタッフで話し合いをする。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		月ごとに目標・めあてを決め活動プログラムが固定化しないように工夫している。運動、工作、SST、外出等のテーマに沿ってマンネリ化を防ぐために意見交換を実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個人と集団を分けた目線で捉え、必要に応じて環境を変えながら支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		日々の朝礼等において支援活動の情報共有を行いその日の役割分担を決定している。役割分担などしっかりスタッフ間で共有できている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		日々の終礼において支援の振り返りを行い問題点や改善点の話し合いにより共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		毎日児童の様子や支援内容についての支援記録を残している。振り返りの情報としても扱い、資質向上に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		支援目標に沿ってモニタリングを実施している。これまでと今後のことを検討する機会としている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		本人支援、家族支援、移行支援、地域支援、連携において特に本人と家族を組み合わせた支援を中心に実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		活動内では工作やクッキング等を通して創造性や発想力を育むとともに盛り付けなどの自由度を高めることで自己肯定感や自己決定力につながるよう支援に努めている。子ども本人の自己選択が可能な活動をより多く取り入れ自由な表現ができる支援を実施している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		主に児発管や機能訓練担当職員が参画し具体的な情報共有ができるよう努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		必要に応じて他の関係機関との情報共有も行い、児童や保護者がスムーズに福祉サービスを受けられるよう連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校との情報共有は適宜実施しており急な変更への対応もできている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		現在は保護者を通じた情報把握を中心に対応していることが多い。今後必要に応じて連携を検討していきたい。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		7		現時点までに先に該当する児童がいないため現時点で対象となる者がいない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	児童発達支援センターで実施された検査結果について保護者を通じた情報共有を行い支援内容の検討に反映している。	支援センターとの連携はとれているが研修などの機会は設けることができていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		外出支援で地域の公園に出かけるなどし、その際に関わる他のこどもとの交流の機会がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		7		自立支援協議会への参加は積極的には行っていないが個別支援において担当者会議等を通じ関係機関と連携を図っている。積極的な参加は実施できていない。今後の課題としたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		毎週自宅への送迎時や個別面談、担当者会議等様々な場面で情報共有を行い相互理解を深めている。日々の送迎時において状況説明や課題についてを保護者に伝え共有理解を図っている。送迎時に常に共有するように努め	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		半年に1回ほど行っている保護者交流会を中心にしている。保護者交流会を定期的に行い家族とともに活動できる機会を設けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時にそれぞれの書類をもとに順序だてて説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		しっかりと時間をとっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		計画書更新の際には保護者に説明を行い、次期の支援について同じ方向性を意識していけるよう対応している。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談希望の連絡が来た際はすぐに対応し日にち調整を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		保護者会を定期的で開催し保護者同士の交流の場を設けている。定期的で開催している保護者交流会では保護者のみならずきょうだい児等も招待し交流できる場を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情対応マニュアルをもとに適切な順序対応を行っている。苦情対応マニュアルに沿った迅速な対応を実施している。それぞれの保護者にあった対応をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		活動の様子をSNSや個人メールを通して保護者へ発信したり年度のはじめ等に通信を発行している。インスタグラムを中心としたSNSの発信を定期的継続的に行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報の取り扱いについては十分に留意し支援にあっている。個人情報に関する不要書類は全てシュレッダー処理PCやスマホの取扱いは厳密に行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		対面だけでなく、電話、書類、LINEなど情報共有ツールの幅を持たせながら対応を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		これまで事業所運営体制の整備や安全面を優先してきたため行えていない。今後実施に向けて検討していきたい。現時点で実施していない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		定期的な訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		年間計画に沿った訓練、業務継続計画の内容確認等を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		左記の内容を事前に保護者と児童から確認している。入所時に保護者より確認職員全体の共通認識を図りアレルギーやてんかん服薬等の表は常に事務室に設置している。家族からの情報提供もあり本人の状況も理解したうえで支援を行っている。対象児童の変化は保護者や関係機関と常に連携している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		常におやつ提供の前には確認している。子どもの口に入れるものは毎日成分表を見てチェックしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		年間計画に沿って研修、訓練を実施している。スタッフ間の意思の向上を図りながら安全に留意した支援を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		年度初めに個人メールで年度分の安全計画を保護者へ周知している。またSNSを通じて実施時の様子を共有している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		毎日職員全体からヒヤリハット事案を聴取し再発防止の話し合いを行っている。常に共有しており全スタッフで再発防止に努めている。都度職員間にて共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		定期的に虐待防止研修を開催し理解知識を深めている。虐待防止研修を定期的で開催している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		契約時に必ず説明を行い了承を得たうえで同意書への記入も行ってもらっている。		